

人間関係形成能力を育む集団活動の在り方

—合意形成を目指す話し合い活動を取り入れて—

中澤 慶子（京都市総合教育センター研究課 研究員）

社会はますます急速に変化し、予測が困難な時代になってきている。そのような変化に積極的に向き合い、よりよい未来の創り手となるためには、多様な他者と共同して課題を解決していく力が必要となる。本研究ではそれを「人間関係形成能力」とし、合意形成を目指す話し合い活動を取り入れることを通し、育成を目指して実践・検証を行った。

第1章 集団活動で育む人間関係形成能力

第1節 本研究で目指す資質・能力

本研究で育成を目指す人間関係形成能力の具体を新学習指導要領の3つの柱に分けると以下の通りである。

○知識・技能

- ①自分の思いを正確に伝える力
- ②相手の意見を聴く力

○思考力・判断力・表現力等

- ③互いの考えや立場を理解し尊重する力
- ④互いのよさや可能性を生かす力
- ⑤集団を調整する力（リーダーシップ力）

○学びに向かう力・人間性等

- ⑥進んでよりよい人間関係を築こうとする力

第2節 人間関係形成能力を育むために

何かを決める時、異なる考え方や立場を理解し、尊重し合いながら、互いの意見の一致点を求めていくことが必要であり、それを合意形成という。合意形成を目指す話し合い活動には、人間関係形成能力の育成の機会が大いにありと考える、それを取り入れて実践を行い、その有用性の検証を行った。

第2章 人間関係形成能力育成にむけて

第1節 合意形成を目指すために

話し合い活動を行う前に、児童の実態に応じて取り組む課題、話し合う人数を考え、計画していく。この課題と話し合いの人数がつけたい力と一致しているかどうかを重要だと考える。

また、児童となぜ話し合うのか、どんなことを話し合うのか共有することで、話し合いの視点が明確になり合意形成しやすくなると考える。

本研究では、学級会の基本的な流れである「出

し合う」「くらべ合う」「まとめる（決める）」を、合意形成を目指す話し合い活動のプロセスとして位置付ける。

第2節 効果的に人間関係形成能力を

育成するための手立て

効果的に人間関係形成能力を育成するために、児童の実態に応じ、「話し合いのスキルアップ」と「人間関係形成能力の育成」のどちらに重点を置くかを考え、実践の計画を立て、手立てを講じた。

第3節 本研究の構想

本研究では、以下のような仮説を立て、実践検証を行っていく。

研究仮説

学級活動(1)をはじめ、その他の教科等で行う集団活動の中に、合意形成を目指す話し合い活動を意図的・段階的に取り入れることで児童に人間関係形成能力が育まれる。

図1は本研究の構想図である。

人間関係形成能力の育成は、生徒指導の目標の

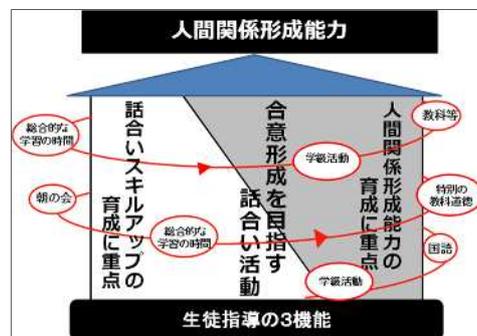


図1 研究構想図

1つであるため、生徒指導の3機能を取り入れた上で本研究を行うことが有効であると考

え取り入れた。様々な教科等の話し合い活動を意図的に「つなげ」、児童の実態に応じて段階的に学んでいくことができるよう計画し、人間関係形成能力を育成していく。

第3章 指導の実際

第1節 実践の計画

研究校の実践では、児童の実態に応じ、最初は話し合いのスキルアップに重点を置き、その後人間関係形成能力育成に重点を置いて計画を立てた。そして、実践を行う中で実践を振り返り、児童の実態に応じて話し合う人数、取り組む課題を修正しながら取り組んだ。

それぞれの話し合い活動では、活動を「つなげる」ために、活動全てに共通する手立てを用い実践を行った。その手立ては、以下の通りである。

- 教員が意識的につなげていくための手立て
 - ・話し合い計画・振り返りシートへの記入
- 児童がつながりを意識できるようにするための手立て
 - ・児童用話し合い振り返りシート
 - ・合意形成の方法の共有（掲示物）
 - ・場面リーダー輪番制

図2は、話し合い計画・振り返りシートである。

「合意形成を目指す話し合い」計画・振り返りシート

○日時
/0月2日(水) 時間目 教科等 (総合的な学習の時間)

○話し合うこと (合意形成させたいこと)
戦争の時代に生きた人々「障害のある人々」のどちらのテーマを学習発表会で発表するか。

○特に育みたい資質・能力

知識・技能	<input checked="" type="checkbox"/> ① 自分の思いを正確に伝える力
	<input checked="" type="checkbox"/> ② 相手の意見を聴く力
思考力・判断力・表現力等	<input checked="" type="checkbox"/> ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
学びに向かう力・人間性等	<input checked="" type="checkbox"/> ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

○話し合う方法 (人数など)
グループで話し合う。

●次に向けて
必ず話し合うことも、決め方の一つであるということを知り、活用していけるようにする。

●生徒指導の3機能チェック

自己決定の場を	<input checked="" type="checkbox"/> ① 一人で考える時間をとる
考える	<input checked="" type="checkbox"/> ② 話し合いの決定を児童の合意形成に委ねる
自己意思を有	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 場内や場外などの状況を確認して、全員が納得できるようにする
ある	<input checked="" type="checkbox"/> ④ 考えを意見や態度の両面から表現できるようにする
共通の人柄	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 児童のよい発言や行動を認め、次に行かせようとする
既を形成する	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥ 互いの考えを認め合うことができた際、学級全体に紹介し共有する

図2 話し合い計画・振り返りシート

ら指導できるようにした。

図3は、合意形成の方法を共有するために実践で活用した掲示物である。

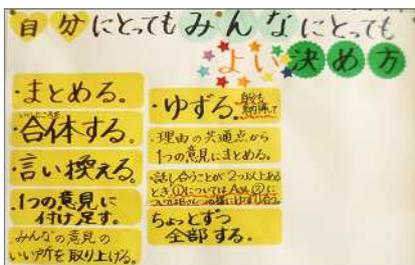


図3 合意形成の方法の掲示物

いつでも活用できるようにした。

第2節 話し合いスキルアップ重点期の

実践内容

実践の初めには児童の実態を把握するために、学級全体とグループでの話し合い活動を取り入れた。その後、児童の実態に応じて話し合いのスキルアップを重視し支援を行いながら実践した。

第3節 人間関係形成能力育成重点期の

実践内容

話し合いのスキルが定着してきたら、様々な意見の中で児童が、葛藤しながら折合いを付けていく場面を想定した課題に取り組んだ。実践では、児童は、自分もみんなも納得できるような答えを見つげるために、葛藤しながらも一生懸命話し合う姿が見られた。その中で、児童の力で合意点を見つげられるようにするための教員の関わりがあり、最終的に合意形成することができた。

第4章 実践から見えてきたこと

第1節 調査結果と分析

本研究の研究仮説を検証していくために、本研究で目指す人間関係形成能力の具体6項目に対応するような質問項目を作成し、実践前後で調査を行った。実践両校で、ほとんど全ての項目で実践後の上昇が見られた。これらの調査結果より、研究仮説の有効性はある程度実証されたと言えると考える。

第2節 手立ての有効性について

教員用話し合い計画・振り返りシートは、振り返りを生かすことで、次回の実践の改善につながった。また、児童用話し合い振り返りシートの記述により、思いを把握することができ、それを元に次回の改善や児童への声かけにつなげることができた。

合意形成の方法を共有し、教室掲示することで、児童にとってだけでなく、教員にとっても活動のつながりを意識しやすくなった。

場面リーダー輪番制では、児童の記述より、相手意識を持って活動に取り組んでいた様子が見られ、人間関係形成に有効であった。

第3節 生徒指導の3機能を活用して

実践の中で、教員が3機能を意識し取り組んだことが、児童への関わり工夫につながった。生徒指導の3機能の視点を教員が持って、児童に関わっていくことは人間関係形成能力育成においてとても効果的であったと考える。